

# あきた 水巡り

47



くぞわたの清水 湯沢市関口

## 山の神を祭るお宮も



山の神を祭っているお宮。保護するため、10年前に周りを囲われている

「冷たくて、すっきりした飲み口。長期間の保存がきくし、最高のわき水」

長年にわたり愛飲している地元の「くぞわたの清水」を渡部宇太郎さん(70)＝湯沢市関口＝は、そう評する。渡部さんは十日に一回、軽トラックに十リポリタンク十五本を載せて足を運ぶ。そのまま飲むほかに、みそ汁やお茶、炊飯などに使っている。

くぞわたの清水はJR上湯沢駅の東側、県道稲庭関口線から分かれた林道を宇留院内方面へ進んだ道沿いに位置する。水場は、利用しやすいように設けられた四本のパイプが目につく程度の簡素な造り。小高い山の中腹

枯れることがない。かつてはほとんど知られておらず、しばりなどで山に入った地元住民がのどを潤すくらいだった。しかしリヤカーが通るのやつの道幅だった山道が整備され、利用者が増加。現在は横手市などから訪れる人も見られる。積雪のため、冬場

から五月初旬ごろまでは車で近づくとはいけません。それでも雪解けを待ちきれずに歩いていく熱

# 伝説に彩られた霊水

今や多くの人に親しまれるようになった、この清水は伝説に彩られた神秘的な水でもある。

その名前の由来については、付近にたぐさの

クズが育っていて「くす」がなまり「くぞ」になったのではないかと推測されているが、ゆう水周辺の土地を所有する藤原喜治朗さん(54)＝同＝によると不思議な言い伝えが残されている。

「昔、山師の『くぞ』が鉱脈を見つけたと山を掘り進めていた。その

た。どうやらその湖はわき水の水源らしく、『くぞ』が『綿入れ』を着て掘り当てたことから『くぞわたの清水』と名付けられた」

が切り倒してしまい、伐採に加わった人々が次々に病に倒れた。山の神の

は近所の人々も参加し、辺りで採った山菜をこの清水で洗い、みそ汁にして食べてもいた。

高齡化が進んだことなどから近所の住民が加わることがなくなったが、祭りは今も続いている。藤原さんの母・ツネさん(83)は静かだが、しっかりと口調で語る。「これからも山の神様と、くぞわたの清水を大切にしていきたい」



豊富な水量を誇るくぞわたの清水。「大勢の人が利用してくれるのはうれしいが、『みは捨てないでほしい』と藤原喜治朗さん＝湯沢市関口